
転生者の悩み事

南雲 アリス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生者の悩み事

【Nコード】

N4705Z

【作者名】

南雲 アリス

【あらすじ】

車に轢かれそうだった黒猫を助けたら私が死んじゃった！？しかも転生とかしちゃったし…。てゆうか普通、転生とかしたら王道的なものじゃない？なのはどうして私は暗殺者の家系の家に生まれちゃったの！？この話はアリシア（主人公）が楽しく(?)人を暗殺していこうとするけどどうしても上手くいかなくて失敗する話(?)です。(以外にコメディーかも)

プロローグ

「ねえ、 さん知っていますか？一度知ってしまった事実を箱の中へ戻すことは出来ないんですよ？」

夢の中で誰かが私にそう囁いた。

++*+*+*+*+*+*+*+*

朝7時

今日は中学校の卒業式だ。

私はいつものように着替えて、いつものように朝ごはんを食べる。

「いつてきまーす」

そういつても誰も返事はしてくれない。母と父は共働きで朝早くからでて、私の寝る時間くらいに帰ってくる。早く帰ってきてもいつも母と父はケンカばかり。こんな生活は、私の小3くらいの頃から始まった。

「慣れてるけど…」

(慣れと諦めは違うよ)

頭にそんなような言葉が入ってくる。もうこの際慣れでも諦めでもいいからお母さんとお父さんに優しくしてもらいたい。

そんな些細な希望も諦めて私はいつも偽の笑顔をかぶって学校に行く。

* * * * *

いつもと同じ通学路でも今日はいつもより人が少ない気がした。私の気分がブルーだからそう見えるだけだろう。と、思っていたら草むらから、黒い毛で紫色の瞳をした猫が飛び出してきた。その猫は車がきているとは知らず、のんきに道路を横断している。まだ車が来ていることを気づかない猫。

「危ない！」

私はとっさに叫んで猫を道路の向こう側に付き飛ばしていた。私

「「「アリシア」」」

皆が同時に叫ぶ。

とゆうことで、私の第二の名前はアリシアに決まったらしい。

プロローグ（後書き）

こんなクソ小説を読んだけいただきありがとうございます！！

え〜と、主に私は「灰色少女」とゆう小説を書いているのでこの小説を更新するのは一週間に2、3回くらいだと思います。

よろしくお願いします！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4705z/>

転生者の悩み事

2011年12月15日23時50分発行